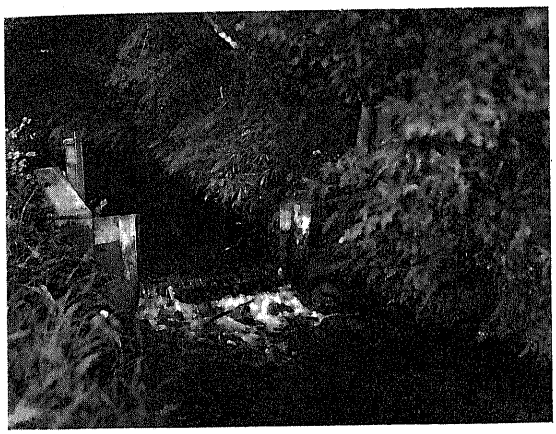
第八章 渇 水 問 題

丹那隧道の掘鑿に影響されて被害を受けた地方の狀況及救助方法等に就いての詳細なことは別に丹那隧道工事誌渇水篇に述ぶることとした。以下簡單に渇水問題に就いて述べることとする。

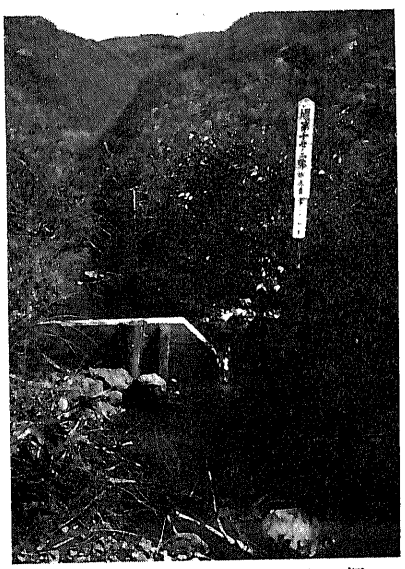
丹那隧道の渇水關係に要したる費用の合計は直接のもの卽ち被害者へ交付されたもの又は施設に要した費用は實に 1,717,868 圓 091 の巨額に達し之に更に間接費を加ふるときは 200 萬圓に達することと推定されるのである。



第 387 圖　竹倉 3 3 號 1 1 量水堰

大正 13 年頃より渇水問題は首をもたげて來た。其の當時は大正12年の關東大地震の直後であり且又渇水程度も微少であつた爲隧道掘鑿に因る爲のものか判然しなかつた。

渇水問題は丹那隧道直上にある丹那盆地より始まつた。元來丹那盆地は水に豐富であつた處で牧牛も盛んであり田は深田だつた。盆地のまはりの山々からの湧水は農家の納戸の下をくゞり流れて眠りを妨げることもあつたのである。然し其の流れも段々細くなつた。葵田が涸れて行つた。田の灌漑用水が不足した。飲料水が不足した。田代盆地ばかりでなく北に在る田代盆地の南邊に及んだ。その間に所在する輕井澤の部落に及んだ。丹那盆地に源を發する柿澤川が涸渇した爲に其の下流の區域に及んだ。



第 388 圖　峠下 17 號 12 量水堰

丹那隧道の竣功も間近くなつた頃は地下水位降下の爲か渇水範圍は廣大なものとなつた。斯くの如くして祖先傳來の水を失つた被害民の困却と恐怖は蓋し筆紙に盡されないものである。之に對する省の救濟方法は頭初に於ては原因も充分に確認出來なかつた爲充分の處置が出來なかつたのであるが，昭和 5 年以降は被害の狀況程度及救濟方法も大體見透しを得て着々其の實績をあげんと努力し來つたの

である。

此の數年に亙るしかも廣範圍の被害に對して地元民は幾度か大衆運動もしたのであるが，世上よく見る問題の仲介人又は社會運動の煽動者等の喰ひ物となることなく問題は常に省と直接被害者との折衝に依り其の間靜岡縣廳の斡旋もあつて無事結末を告げたのである。

凡例

地目変換地	減價補償地	揚水機灌漑區域	被害區域ノ内熱海町	水量測定所
斷層線	湧水涸渇セサルモノ	雨量計	湧水涸渇セルモノ	觀測所

丹那隧道附近湯水並湯水狀況圖